

# 団塊世代はどこへゆく

## ものづくり現場から団塊雇用を考える（上）

戦後の日本社会の中核を担ってきた団塊世

代の第一陣が本年2000年に満60歳を迎え、労働市場から退出し始める。そのことに伴って起きる、ものづくり現場での中核的人材の喪失が、いわゆる「2007年問題」と言われている。金属労協は、ものづくり産業で働く労働者の立場から、前号での「ものづくり現場から若者雇用を考える」に続いて、第二弾として、「団塊の世代はどこへゆく」ものづくり現場から団塊雇用を考える」を2回に分けて特集する。

上編では、ものづくり企業における「ものづくり技能・技術の伝承システム」の紹介とそこで活き活きと活躍する団塊OBのベテラ

ンたちの姿を紹介する。

さらに、団塊世代のセカンドライフの活き活きした過ごし方について、ボランティアに生きる団塊OBの生き方を通して考える。また、産別の60歳以降の雇用確保の現状について、電機連合と全電線の取り組み状況を紹介する。

下編では、新しい世代に受け継ぐ中小企業のものづくり技術技能の伝承の紹介とそこで活躍するベテランの姿、セカンドライフを海外で活躍するベテランの紹介、そして、老後に活き活きと暮らせる地域・国の紹介をしていく。

(編集・文責) IMF-JC 組織総務局



Illustration : しおたまこ